

印西大師 第82番 七次・長楽寺

1 名称 (No.082/159) 〔手引鏡：七次・観世院〕〔資料館：長楽寺〕〔行程表：長楽寺〕

2 場所 白井市根1386 長楽寺

白井新田・橋本大師から道程約1,650m

富ヶ谷・薬師堂から道程約2,950m

(袁記経由のコースでもほぼ距離は同じ)

GPS座標 35.79029658368469, 140.04291369462672

3 由緒 天台宗 七寶山 灌頂院 長楽寺

根村字小山にあり 七寶山灌頂院と号す 天台宗にして本寺泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 寛永元年二月十日 創立檀徒45人 (印旛郡誌)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。

5 境内 大師堂のまわりは本堂、鐘楼、白井七福神(恵比寿)があります。また隣は宝幼稚園と大日神社。大日神社の境内社・天神八幡神社では名馬生食 (いけずき) を祭っています。

6 写真 (2022.11撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



最近きれいに整備された参道



本堂



銀杏

7 情報

(1) 印西大師 第82番 灌頂院 御詠歌 (泉倉寺本による)

宵の間の妙降(たへふ)る霜の消へぬれば あとこそ鐘の勤行の聲(声)

四国八十八ヶ所 第82番 天台宗 青峰山(あおみねざん) 千手院 根香寺(ねごろじ) 写し

泉倉寺本には「讃岐根来寺写し」とあり。根香寺を書き間違えたか。

(2) くわんぜういん(観世院)

手引鏡には仏法寺の次に△印で「なゝつぎ(七次) くわんぜういん(観世院)」とあるのは、七寶山 灌頂院 (かんじょういん) 長楽寺のことと思われる。つまり七次・長楽寺は、明治4年の時点では番外札所であった。

(3) 遷座

手引鏡に「(表紙裏書・異筆) 八十二番 七ッ次 笠神 はらのどう」との記載(第82番札所を笠神の原ノ堂から七次に遷座するという意味)がある。また、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には「82 七次 観性院 = 笠神」、「本番札所の協議をされたのは昭和十年代当初と推察されます」との記載がある。ここでいう「七ッ次」及び「観性院」というのは長楽寺のことと思われる。遷座の理由は不明であるが、笠神・原ノ堂から遷座により長楽寺は第82番札所となった。

(4) 長楽寺の木造阿弥陀如来立像 (市指定文化財)

長楽寺は、文明年間(1469～1486年)の開基といわれています。元禄元年(1688年)に本堂が再建されました。本尊は白井市指定文化財の阿弥陀如来立像です。白井市の仏像の中でも有数の大きさを持っています。現本堂は本山延暦寺中堂の様式をとり入れた座禅などの修業道場として知られています。また、鐘楼を本堂とともに新設、除夜の鐘として近隣から親しまれています。しろい七福神めぐりの恵比寿神を祭っております。(千葉県公式観光物産サイト)



(4) 大日神社と神楽 (2008.10.15広報しろい)

七次地区にある大日神社(だいにちじんじゃ)は、日之御神を祭神とし、延宝5年(1677年)9月15日に七次村の村社として創建されたとされています。

現在の本殿は建築様式から江戸時代後末期に建てられたものと推定されていますが、棟札が未確認のため、詳細な年代は明らかではありません。記録として確認されているのは、明治3年に屋根を茅葺きから銅版葺きに改めたこと、本殿の大規模な修理を平成7年に行ったことです。境内には慶応2年(1866年)に建てられた高さ3mの石造鳥居、その脇に樹高約30.82m、直径116.3cm、幹周り375cm、樹齢約200年と推定される杉の巨樹、境内社である八坂神社、駒形神社、疱瘡(ほうそう)神社、三峯神社の4社があります。

この神社を特徴付けるものとして、神楽(大日神楽)の存在があります。現在活動を停止している富塚の神楽を除くと、市内で唯一の神楽となります。伝えられている演目は「巫女舞(みこまい)」一座で、昭和初期ごろに富塚地区へ舞を習いに行き開始されたとされ、第2次大戦中に一度途絶えましたが、昭和30年ごろに復活して現在に至ります。

神楽は1月1日の元旦祭、2月17日のオビシャ、10月15日の神社大祭の年3回、神社の拝殿で、笛・太鼓・鼓・鉦の音に合わせ、素面(すめん)の舞い手により舞われます。周辺で伝えられている神楽はさまざまな面を付けて踊るものが多く、素面による神楽は珍しいといえます。神楽を演じるのは20から30代を中心とした若手の氏子で、2月のオビシャで舞う前には、本番に向け、後継者育成も兼ねて2週間程度みっちり練習を積むそうです。伝統の神楽を継承していく努力がしのばれます。